

千石保

教育改革の目標

青少年問題と臨教審

千石保（せんごく・たもつ）（五六）
〔助日本青年研究所長・弁護士（第三部会）
昭和二十六年早稲田大学法医学部卒業。
地検検事・法務総合研究所教官・事務
局長、総理府青少年対策本部参事官を
経て現職。〕

いじめのニュースが、連日のように新聞紙上を賑わしている。しばらく前は、校内暴力の嵐が吹き荒れた。校内暴力は、やや下火になつたとはいへ、依然として大問題であることに変わりがない。また、それほどニュースにはならないものの、登校拒否も小さい問題ではない。登校拒否には、いじめ、校内暴力、家庭内暴力の影が付きまとつている。それらの原因があつて、登校拒否をする。

ひと口にいって、教育荒廃が吹きすぎでいるのだが、どうこれに対処するか。国民の期待を担つて、臨時教育審議会が発足した。教育荒廃は、家庭のしつけが足りないからとい、教師の熱意や資質が問題だとい、大学入学試験が原因だといい、まさに百家争鳴の感がある。臨教審は、この教育荒廃にどんな処方箋が書けるのか。

もう一つの臨教審の目的は、現状からの問題意識というよりも、二十一世紀を見越した教育の在り方である。今後、国際関係がより重要となるだろう。諸外国とのコミュニケーションをよくするための教育は、いかにあるべきか。それにも増して、ハイテクノロジーの時代に求められる創造性や独創性を、どのようにして育成するか。こ

いじめのニュースが、連日のように新聞紙上を賑わしている。しばらく前は、校内暴力の嵐が吹き荒れた。校内暴力は、やや下火になつたとはいへ、依然として大問題であることに変わりがない。また、それほどニュースにはならないものの、登校拒否も小さい問題ではない。登校拒否には、いじめ、校内暴力、家庭内暴力の影が付きまとつている。それらの原因があつて、登校拒否をする。

ひと口にいって、教育荒廃が吹きすぎでいるのだが、どうこれに対処するか。国民の期待を担つて、臨時教育審議会が発足した。教育荒廃は、家庭のしつけが足りないからとい、教師の熱意や資質が問題だとい、大学入学試験が原因だといい、まさに百家争鳴の感がある。臨教審は、この教育荒廃にどんな処方箟が書けるのか。

青少年問題

青少年問題は、非行問題に限られてはいない。だが、青少年を問題視する、健全さを育てるよりは、

いじめのニュースが、連日のように新聞紙上を賑わしている。しばらく前は、校内暴力の嵐が吹き荒れた。校内暴力は、やや下火になつたとはいへ、依然として大問題であることに変わりがない。また、それほどニュースにはならないものの、登校拒否も小さい問題ではない。登校拒否には、いじめ、校内暴力、家庭内暴力の影が付きまとつている。それらの原因があつて、登校拒否をする。

ひと口にいって、教育荒廃が吹きすぎでいるのだが、どうこれに対処するか。国民の期待を担つて、臨時教育審議会が発足した。教育荒廃は、家庭のしつけが足りないからとい、教師の熱意や資質が問題だとい、大学入学試験が原因だといい、まさに百家争鳴の感がある。臨教審は、この教育荒廃にどんな処方箟が書けるのか。

驚くべきことに、総理府青少年対策本部（当時）などの調査では、先生を殴りたい、学校の施設を破壊したいという生徒が、半数以上もいることがわかつた。どうやら、勉強についていけない子、つっぱりの子どもたちが暴力を振るっていることもわかつてきた。家庭のしつけも、なつていないうつも明らかになってきた。横浜の浮浪者を

とのほか、従来の暗記主義の教育が、問題として浮上する。

教育荒廃という「現状」を問題に据えるのと、創造性を養う「未来」を睨んだ視点からの問題とは、ときには正面衝突する。臨時教育審議会は、この二つの問題を抱えてスタートした。創造性を養う教育は、より個性や自由を尊重し、いわば英才教育とでもいいうべき内容が適切だろう。「自由化」論者は、この側面を強調する。しかし、例えれば、小学校を自由に選び、教科内容や進級などを自由にすることは、競争をますます激しくし、受験競争の低年齢化をもたらすだろう。それは、今日の教育荒廃をより激化させることに繋がる。そこに、臨教審のジレンマがあつたのだ。

これらの青少年問題は、性格や環境が特殊な青少年の問題ではなく、今日の日本の社会が持つてゐる一般的な問題である。この一般的問題の処方箋を書くために、臨教審が生まれた。では、どんな処方箟があるのか。

数年前、東京・町田市の忠生中学で、先生が果実ナイフで生徒を刺す、という事件が起り、同じ頃、横浜では中学生が浮浪者を暴力で殺すという事件が起つた。日本の中学生たちが、とてもじやない問題を抱えていることを、この二つの事件が、日本の親や先生や一般の人々に痛烈に示した。学校がテレビに写し出されて、窓ガラスという窓ガラスがほとんど割れており、便所の囲いが破壊され、ホール製の便器だけがむき出しになつてある有様を見て、国民は仰天した。

驚くべきことに、総理府青少年対策本部（当時）などの調査では、先生を殴りたい、学校の施設を破壊したいという生徒が、半数以上もいることがわかつた。どうやら、勉強についていけない子、つっぱりの子どもたちが暴力を振るっていることもわかつてきた。家庭のしつけも、なつていないうつも明らかになってきた。横浜の浮浪者を